

日本海スルメイカ漁場調査

(抄録)

今村 豊・油野 晃

2002 年 4 月～10 月に試験船東奥丸 (140 トン) でスルメイカの漁場調査等を実施した。調査は 4、5、6、8、10 月の計 5 回行った。

沿岸域におけるスルメイカ

2002 年本県日本海沿岸に来遊したスルメイカは、例年並みの 5 月下旬 (小泊は前年より 5 日早い 5 月 22 日・三厩も 5 日早い 5 月 23 日) に初漁がみられた。日本海主要港 (深浦・鰺ヶ沢・小泊・下前) では、漁期前半である 6～7 月に順調な伸びをみせ、好漁だった前年度には及ばないものの (前年比約 87%)、約 5,578 トンと近年では比較的高い水揚げとなった。

日本海で主に漁獲されるスルメイカは、秋季発生系群である。我が国の秋季発生系群の漁獲量は、90 年代は 13～15 万トンで推移していた。98 年には 10 万 8 千トンに減少したが、99 年に 14 万トンに増加した。2000 年以降は 12 万トン前後の値となっている。

沖合域におけるスルメイカ

本県における日本海沖合のスルメイカの水揚げは、中型いか釣船による八戸港への水揚げ (一部太平洋の漁獲物を含む) で、2002 年漁期 (7～翌年 4 月) の水揚げ量は 22,642 トンとなっており、前年同期の水揚げと比較すると 93% (前年 24,472 トン) でほぼ前年並みとなっている。

発表誌：平成 14 年度いか釣漁場開発調査資料 28 号及び平成 14 年度外洋性イカ (スルメイカ・アカイカ) に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産総合研究センター